

仙人通信 221 湯坂道 (鷹巣山 834m)

湯坂道は、芦ノ湖の元箱根と箱根湯本の間にある尾根を通る古道で、様々な歴史を刻んできた事で知られている。

今回は、国道1号沿いの精進池の近くにある六道地蔵のバス停から、鷹の巣山・浅間山・城山・湯坂山・湯坂城跡を経て国道1号から箱根湯本に戻る、標高差800mのコースとした。バスを降り、国道の反対側にある「石仏群と歴史館」を見学してからと考えていたが、10時開館とあり断念して、表面が凍って白くなった精進湖の縁からのスタートである。

100m程進むと国道に地下道があり、地下道の先に石仏郡で守られた大きな六道地蔵だ。再度地下道に戻り石仏群・多田満仲の墓や崖の岩に掘られた二十五菩薩の磨崖仏をへて、地下道を潜った先が、虎御前や仇討ちで有名な曾我兄弟の五輪塔(国道から確認できる)だ。

ここからは、上二子山沿いに設けられた幅2m程の道で、10cm前後の自然石を60cm程の幅に石畳状に敷いた古道の始まりである。スタートから30分ほどで国道にある芦の湯バス停に出て国道沿いの歩道を15分程進むと次の湯坂道入口のバス停、更に300m程で湯坂路古道の入り口だ。コースは幅30m程の防火帯の中央に設けられ、樺の木やアジサイが等間隔で植えられた緩い登りだ。15分程で四阿がある鷹の巣山山頂である。

ここは、秀吉の小田原攻撃に備えて北条氏が箱根一帯に設けた山城の一つである。制覇された後は秀吉に従った家康がこの城に滞在したと説明書きにはある。かなり急勾配の九十九折を10分程下がると緩やかなコースとなり僅かに登ること15分程で千条の滝の分岐点となる。この僅か先が三角点のある浅間山の山頂だ。南面一帯は草原状で明るいも期待した富士山は望めず残念！。(山麓に浅間神社が祀られた事による山名だそうである)

ここからは箱根駒ヶ岳と上二子山が見えるのみで、視界は防火帯の内側のみだ。

急な草原状の下り坂を10分程で大平台へのコースと別れ、更に10分程で若干盛り上がった城山(特に標識なし)、更に10分程でJRが管理する高圧送電線の鉄塔だ。古道の北側はずっと檜や杉に覆われ、南面は背丈を超える篠笹や赤松で、視界は尾根筋のみが続く。

30分程歩いたらどうか突然前方に小田原方面の街並みと海が確認されるも、そこで防火帯のコースは消えて、右手の藪を切り開いた1m程の道幅となった。反時計方向に巻く様に進むと10分程で平らなコースへ戻り(幅は3m程)、更に10分程で石畳の道となる。紅葉したモミジが心を和ませてくれた。室町時代に作られたという湯坂城跡を過ぎ、更に15分程で国道の登山口へ辿りついて箱根湯本駅に戻った、2時間55分(16500歩)の視界の利かない下り中心で、ちょっと物足りなさを感じた山旅でした。(R3.12.22)

精神湖と駒ヶ岳



浅間山山頂



石畳の古道



国道沿いの登山口

